

鈴木商店本店跡地

— 総合商社の源流にして我が国産業革命の源泉 —

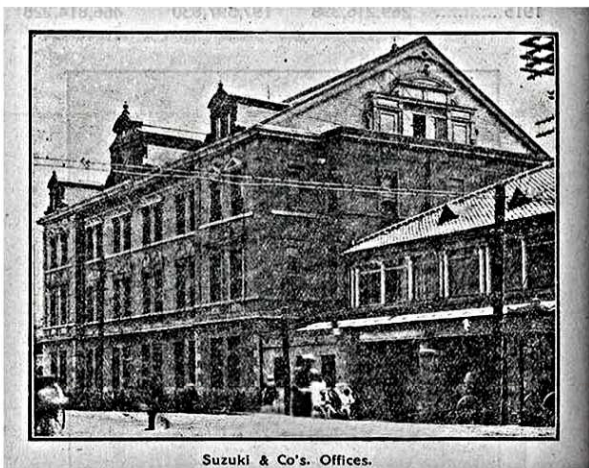
この場所には大正期に日本一の総合商社となった鈴木商店の本店がありました。明治・大正期に活躍した関西建築界の長老・河合浩蔵の設計による「みかどホテル」を後藤勝造（後藤回漕店創業者）より譲り受けたもので、貿易港神戸を象徴する西洋風建築物でした。

一八七四（明治七）年、鈴木岩治郎により神戸弁天浜に洋糖引取商として創業された鈴木商店は、一八九四（明治二七）年、岩治郎没後に女主人となった鈴木よねと、大番頭・金子直吉を中心にして次々に製造業を起業し、日本の貿易立国の礎となり、神戸港および神戸の産業発展に貢献しました。

また鈴木よねは、女性の自立と職業進出の必要性を訴え、日本初の公立女子商業学校である神戸市立女子商業学校（現・神戸市立神港橘高等学校）の創設（大正六年）に尽力しました。

一九一八（大正七）年に全国各地で起きた米騒動は、ここ神戸にも飛び火。この地にあった本店社屋を焼失するという悲劇に見舞われましたが、鈴木商店の成長の勢いは衰えず、大正期の我が国経済を牽引し、後に総合商社の源流と言われるほどの実績を残しました。鈴木商店が関与した事業は、現在の神戸製鋼所、帝人、双日、太陽鋳工他数多くの企業に継承されています。

二〇一七年七月吉日



大正5年当時の鈴木商店本店



大番頭・金子直吉



お家さん・鈴木よね

本記念碑は、2017年神戸開港150年を記念して、鈴木商店のOBによって組織された辰巳会・鈴木商店記念館により寄贈されたものです。